



水源地の湖面に映る栗ヶ岳

主な内容

■ 小池市長の市政報告

- ・市内全保育園長さんが署名簿を添えて
要望書を知事さんへ提出しました…②⑦
- ・新加茂病院建設に関する加茂市案…⑧⑪

■ 第48回 市展入賞作品紹介 ……②⑤

■ 秋の叙勲 ……②⑥

■ 第12回 加茂菊花展開催 ……②⑧

■ 加茂の風土記 ……③①

百年に一度の唯一の好機！

新加茂病院に病児・病後児保育施設を！ お金は加茂市と田上町が負担！

新加茂病院に産科の個室が20室そろった産科を！ 妊婦の方々は、皆 個室を希望しています。

この二つこそ絶対必要な少子化対策！

産科の個室が1つでは、医師も妊婦もやって来ず、産科は実現しません。

市政報告 その一

加茂市長 小池清彦

て提出されました。その後引き続き尾身議長さんにも面会し、提出されました。

加茂市内の全保育園（私立六園、公立五園）の園長さんが、

(一) 新加茂病院に病児・病後児保育施設を設置すること。

(二) 産科の個室を二十室とする

こと

を求める要望書を、十一月一日、泉田知事さんと尾身孝昭県議会議長さんに提出されました。

なお、この要望書は、十一月十日に全保育園長さんがあらためて、泉田知事さんに面会し、署名簿を添え

この要望書は、加茂市・田上町並びに加茂病院を中心とする広い地域の若い人たちが、安心して子どもを産み、育てることができるようにするため、加茂市の全保育園の園長、保育士、全園児の世帯五百十五世帯の九五%に当たる四百八十九世帯を含む関係者三千百七十六人の署名を以て要望されたものであります。

また、この要望書には、須田保育園で、園児の母親を中心に二十代から四十年までの女性に対して行つたアンケートを付けてあります。このアンケートに応じた四十人の女性のうち、四十人が個室を希望し、相部屋を望む人は、一人もおらず、どちらでもよいと答えた人が一人いただけであります。

知事さん宛ての要望書は、次のとおりであり、県議会議長さん宛ての要望書は、これと同文です。

「のたび建設される県立加茂病院の建物の中に病児・病後児保育施設を設置する」と

産科の個室を二十室とする」と

「これらの目的等のため、五階の面積を広げる」とを求める要望書

泉田知事様におかれましては、県立加茂病院の改築を御決断されました」とに対し、厚く御礼申し上げます。

しかしながら、県の設計案では、私達が切実に熱望しております病児・病後児保育施設が実現しないことになつております。また、少子化問題を解決するためにも必要欠くべからざる産科の内容が甚だ不十分で、個室が少ないため、妊娠婦はやつて来ず、医師もやつて来ず、産科は実現不可能となると思われます。

つきましては、私達は、「」に、貴台に対し、次の事項を衷心より御要望申し上げます。

- 一 このたび建設される県立加茂病院の建物の中に病児・病後児保育施設を設置すること
- 二 産科の個室を二十室とする」と
- 三 これらの目的等のため五階の面積を広げる」と

その理由は、次のとおりであります。

一 病児・病後児保育施設をこのたび建設する建物の中へ設置することについて

- (1) 現在は、両親が共に働きに出ている家族が多く、病気になった子供を預けたくとも、加茂・田上地域には、受け入れる施設がなく、病児・病後児保育施設の設置に対する乳幼児の保護者の要望は、緊急の課題として、極めて強いものがあります。
- (2) 従つて、この施設は、新加茂病院の開院と同時に開園しなければなりません。
- (3) ところが、このたび建設される県立加茂病院の建物の中に、この施設が設置されることは、なつております。
- (4) 他方、新加茂病院の将来の増築スペースは、開院時には、まだ今の加茂病院の建物の下にありますので、この増築スペースに、この施設を設置することは、不可能であります。
- (5) 従つて、病児・病後児保育施設は、このたび建設される県立加茂病院の建物の中に設置することが絶対に必要

であります。

二 産科の個室を二十室とする」とについて

(1) 現在は、産科は、ホテルのような病院を建てる」とが一般的となり、「産科は個室」が常識の時代です。

(2) その理由は、出産前の数日間、妊婦は非常に苦しく、大きな声を出さざるを得ず、相部屋にはいたたまれないという大問題があり、また、母体と産児の安全・安心のためにも、ほとんどすべての妊婦が個室を強く望むからであります。

(3) 須田保育園で、園児の母親を中心に二十代から四十代までの女性からアンケートをとったところ、アンケートに応じた四十一人の女性のうち、四十人が個室を希望し、相部屋を望む人は、一人もおらず、どちらでもよいと答えた人が一人ただけでありました。また、どこで出産したかとの問い合わせに対しても、三十三人(八十・五%)が個室で出産したと答え、個室と相部屋の両方を経験したと答えた人が七人(十七・一%)、相部屋のみで出産したと答えた人は一人(一・四%)にすぎませんでした。アンケートの結果は、別紙のとおりです。

(4) 現在、三条市、燕市、弥彦村、加茂市、田上町、新津、五泉市、阿賀町の広い地域において、産科は、レディスクリニック石黒(全て個室で19)(三条市)、産科婦人科茅原クリニック(個室9・四人部屋2)(三条市)、済生会三条病院(個室8・四人部屋2)(三条市)、渡辺医院(個室13・一人部屋1・四人部屋1)(燕市吉田)、本田医院(個室4・四人部屋1)(燕市分水)の五つしかありません。新津にあった新津産科婦人科クリニックは、横越(新潟市江南区)の方へ移ってしまい、新津にはありません。三条総合病院は二年くらい前から、吉田病院は平成二十六年から、産科をやめてしまいました。加茂病院は、こうした広い地域の妊婦に対応しなければなりません。

(5) 新津、五泉市、阿賀町は、別の二次医療圏だとしても、この地域には、産科がないのですから、加茂病院で対応する必要があります。

(6) (4)と(5)で述べた状況のため、この地域では、産科が著しく足りない実情にあり、

- ① 病院が混んでいて、引き受ける病院を決めるのに時間がかかる。
- ② 産気づいて病院へ行つても、入院する部屋がなく、「まだ早いから陣痛が五分間隔になつてから来るよう」と言われる。

(3) 検診に行つても、長時間待たされる。

というような事態が日常的に多発しております。

(7) 従つて、加茂病院産科は、この地域での産科が著しく足りない実情に対応する必要があり、三条市のレディスクリニック石黒並みの個室二十室を作る必要があります。

(8) 県の設計案では、内科の個室は合計八室しかなく、内科の診療科は、産科も含めて九つもあります。従つて、産科の分は、一室しかありません。

(9) 「民業を圧迫するから」という理由で、産科の個室を一室にして、役に立たない、妊婦の来ない産科にし、結局はつぶしてしまつては、なりません。

(10) 現在は、産科は個室二十室が常識の時代です。前知事の時代に、産科については、全て個室のホテルのような病院を立てる「ことが一般的となりました。三条市には、個室十九室のレディスクリニック石黒が建てられ、新津には個室十九室の新津産科婦人科クリニックが建てられました。その結果、妊婦は、これらの病院へ行つてしまい、個室の少ない加茂病院には、妊婦が来なくなつてしましました。そして、前知事が産科を閉鎖してしまつたのであります。

(11) 折角貴台の大英断により復活した産科は、今的新加茂病院案では、個室が少ないと妊婦はやつて来ず、医師もやつて来ず、実現不可能となります。

(12) せめてレディスクリニック石黒並みの二十の個室を設置していただきたく、お願い申し上げます。

三 五階の面積を広げることについて

(1) 病児・病後児保育施設に要する面積は三一一 m^2 であります。

(2) 産科個室を二十室にするための面積は、六一三・〇五 m^2 であります。

(3) このほかにも、集中治療室（ICU）、未熟児室、回復病室等、県の設計案にない重要な施設も多く、入院患者のための人工透析の部屋も必要です。

(4) つきましては、五階の面積を広げる必要があると考えます。五階の面積を広げる余裕は、一、四八二 m^2 であります。

(5) 病児・病後児保育施設の建設費は、すべて加茂市と田上町が負担いたします。

(6) 従つて、県が産科の個室等のために追加支出される金額は、一億円くらいにすぎません。既に県議会で可決されている七十五億円の継続費に、わずかに一億円くらいを三十年の起債で追加するだけのことであります。

以上、私達は、加茂市・田上町並びに加茂病院を中心とする広い地域の若い人たちが安心して子どもを産み、育てることができるようにするため、加茂市の全保育園の園長、保育士、全園児の世帯五百十五世帯の九十五%に当たる四百八十九世帯を含む関係者三千百七十六人の署名を以て、衷心より御要望申し上げるものであります。

平成二十七年十一月二日

下条保育園園長
本量寺保育園園長
須田保育園園長
加茂新田保育園園長
七谷保育園園長
宝ヶ丘保育園園長
加茂保育園園長
西宮保育園園長
高芝野保育園園長
柳保育園園長
春小明茂中富富溝石大銀
日林野野口山森田
文典好晃良敏宗子治
子子子子美一行磨宗子治

須田保育園

◎出産環境のアンケート

平成27年10月5日

設問	20代	30代	40代	全体
①母親年代	20代	30代	40代	
有効回答数	11	23	7	41
②これから産む場合の病室形態希望	個室 相部屋 どちらでも良い、	個室 相部屋 どちらでも良い、	個室 相部屋 どちらでも良い、	個室 相部屋 どちらでも良い、
実数	0 22	0 1	7 0	0 40
%	0.0% 95.7%	0.0% 4.3%	100.0% 0.0%	0.0% 97.6% 0.0% 2.4%
③今までの出産形態の病室形態	個室 相部屋 個室・両方経験	個室 相部屋 個室・両部屋・両方経験	個室 相部屋 個室・相部屋・両方経験	個室 相部屋 個室・相部屋・両方経験
実数	0 3	18 1	4 7	0 0
%	0.0% 27.3%	78.3% 4.3%	17.4% 100.0%	0.0% 80.5% 2.4% 17.1%

市政報告 その二

階において、予算の範囲内に十分収まるものであります。

「新加茂病院建設に関する加茂市案」を、十一月二十四日、北窓副知事さんを通して、泉田知事さんに提出いたしました。

1 このたび提出した加茂市案は、県案の極めて

不十分な点を救済し、かつ予算の範囲内に収まるもので地域住民をこの上なく幸福にするものであります。

2 加茂市案は、新潟県案に比べ一億二千四百三十六万八千円（多目的ラウンジをなくする場合）ないし二憶九千五百二十八万二千円（多目的ラウンジを存続させる場合）多くお金がかかるだけのもので、この金額は、予算の執行の段

3 即ち、病院の建設費七十五億円の入札差金は、五億五千八百七十五万円（七・四五%）と推計され、加茂市案での増額分二億三千四百三十六万八千円ないし二憶九千五百二十八万二千円は、十分にこの入札差金の中に収まるものであります。

4 このわずか二億円～三億円の出費によつてもたらされる地域住民の幸福の高さは、県案に比べ天地の差のあるものであります。

5 即ち、加茂市案によれば、新加茂病院には、一般の産科並みの二十の個室が設置され、住民の要望にお応えできる病児・病後児保育施設（経費は加茂市と田上町が負担）が設置されるのであります。

6 知事さんは、十月四日に、「北窓副知事と加茂市長が毎日でも話し合うことにしたい。」と申し入れてこられたのですが、当方が旧看護専門学校の建物の解体を認めたとたんに態度をかえ、「県議会が同意しない。」の一点ばかりで、合意への話し合いを拒否しています。

7 佐藤田上町長さんは、「加茂市案は、経費の増額が少なく、予算の範囲内に収まるものであり、県がお認め下さるならば、一番良い案だ。」と評価しておられます。

8 加茂市議会にも加茂市案を説明いたしましたが、反対はありませんでした。

9 加茂市案は、次に掲げるとおりであります。

平成27年11月24日
平成27年12月 7日改訂
加茂市

新加茂病院建設に関する加茂市案

- 1 (1) 1階の多目的ホールを取りやめ、そこに病児・病後児保育施設を加茂市と田上町の負担で建設する。
(2) 病児・病後児保育施設の概要は、別紙1-1及び1-2のとおりとする。
(3) 病児・病後児保育施設（303.36m²）の建設費は106,176千円ないし150,163千円と推計する。
- 2 6階の多目的ラウンジ（64.51m²、エレベーター等を含めて152.87m²）を多目的ホール（115.16m²、エレベーター、トイレ等を含めて232.40m²）に改め、6階（5階でも可）に置く。（別紙2）
- 3 3階の内科系に次のとおり個室4室を新設し、これに個室（バス、トイレ付き）1室を加えて5室とし、これらを産科の個室に指定する。（別紙3-1）
具体的には、
 - (1) 個室（バス、トイレ付き）1室
 - (2) 個室（バス、トイレ付き）の隣りの4人部屋2室のそれぞれを個室（バス、トイレ付き）2室として4室の個室（バス、トイレ付き）を新設する。

4 取りやめる 1 階の多目的ホール (222.79m^2) の分を産科の個室 (バス、トイレ付き) 6 室 (計 238.61m^2) とし、平屋の検査部門の 2 階 (5 階でも可) に設置する。(別紙 3-2)

5 上記のほか産科の個室 (バス、トイレ付き) 9 室 (357.92m^2) を平屋の検査部門の 2 階 (5 階でも可) に設置する。(別紙 3-2)
(なお、多目的ホールを 2 階に設置する場合は、別紙 3-3 のとおりとする。)

6 以上のために必要な追加の経費は、次のとおり $224,368$ 千円と推計する。

(1) 平屋の検査部門の 2 階に、産科の個室 15 室を建設するための経費 $295,282$ 千円

(2) 6 階の多目的ラウンジを多目的ホールに改めるための経費 $39,367$ 千円

(3) 建設をとりやめる 1 階の多目的ホールの建設費 $110,281$ 千円

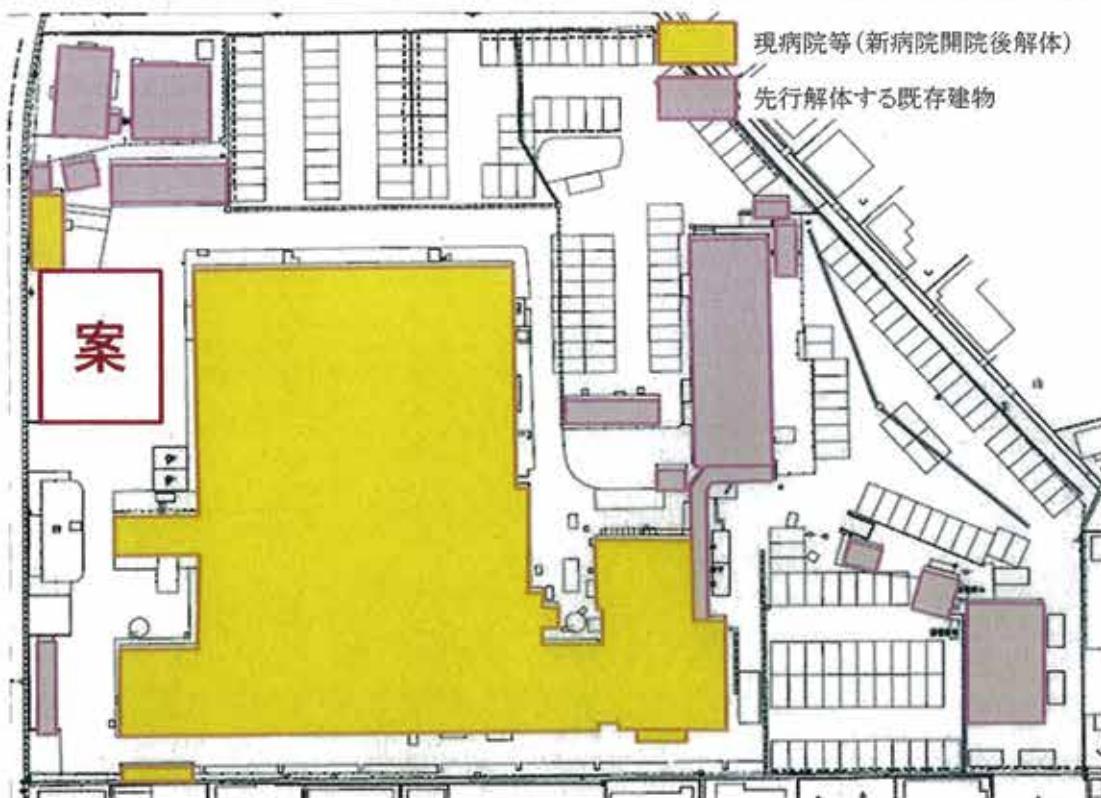
(4) (1)+(2)-(3)
 $= 295,282$ 千円 + $39,367$ 千円 - $110,281$ 千円
 $= 224,368$ 千円

7 (1) このために必要な経費 $224,368$ 千円は、予算の執行の段階において、予算の範囲内に十分収まるので、予算増額の必要はない。
(2) 病院の建設費 $7,500,000$ 千円の執行においては、 $558,750$ 千円 (7.45%) の入札差金が生ずるものと推計する。従って建設費の増額分 $224,368$ 千円は、この入札差金の中に十分に収まるものと考える。

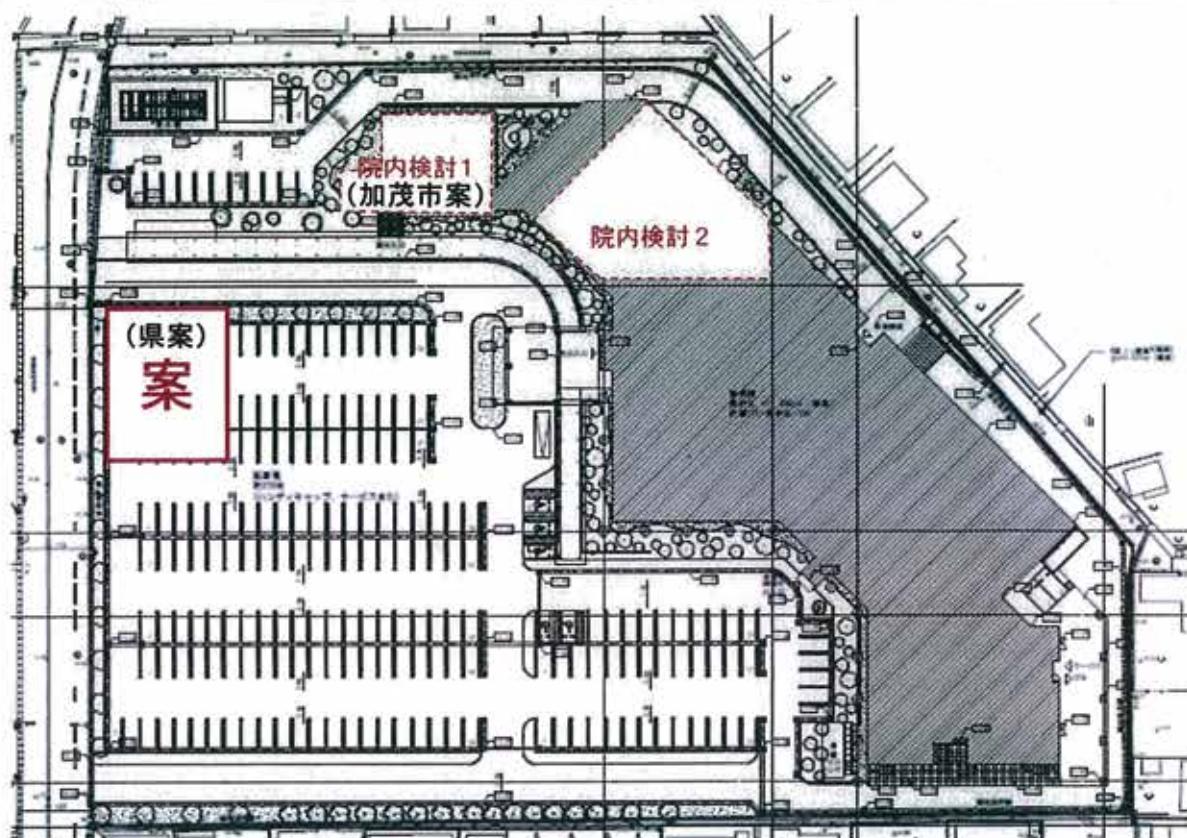
8 新加茂病院の計画にはないが、必要と思われる集中治療室 (ICU)、未熟児室等については、県当局のお考えにおまかせする。

病児・病後児保育施設の設置場所 検討図

(1) 現病院

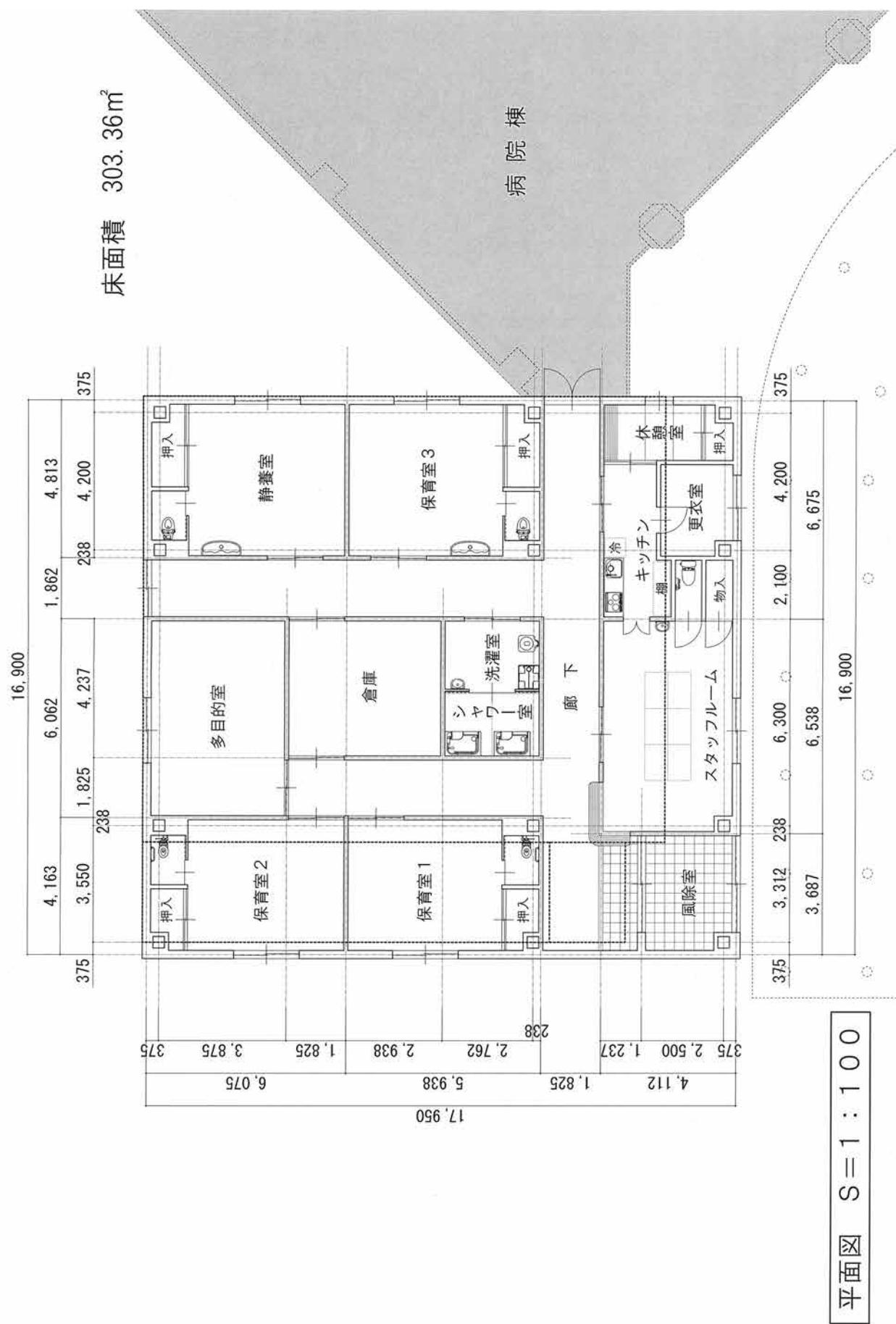


(2) 新病院

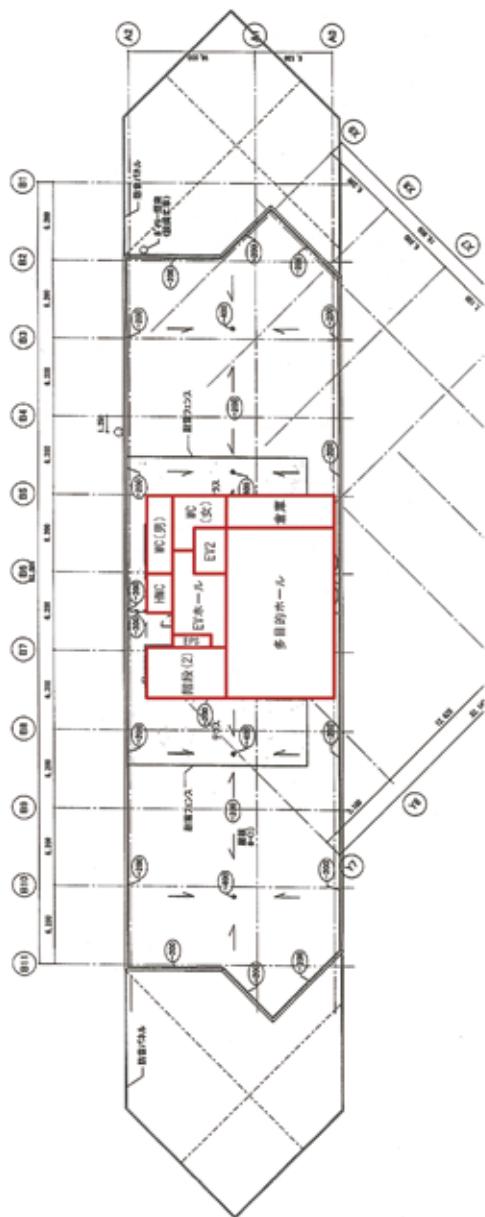


● 加茂市・田上町の病児・病後児保育施設設計図

別紙1-2

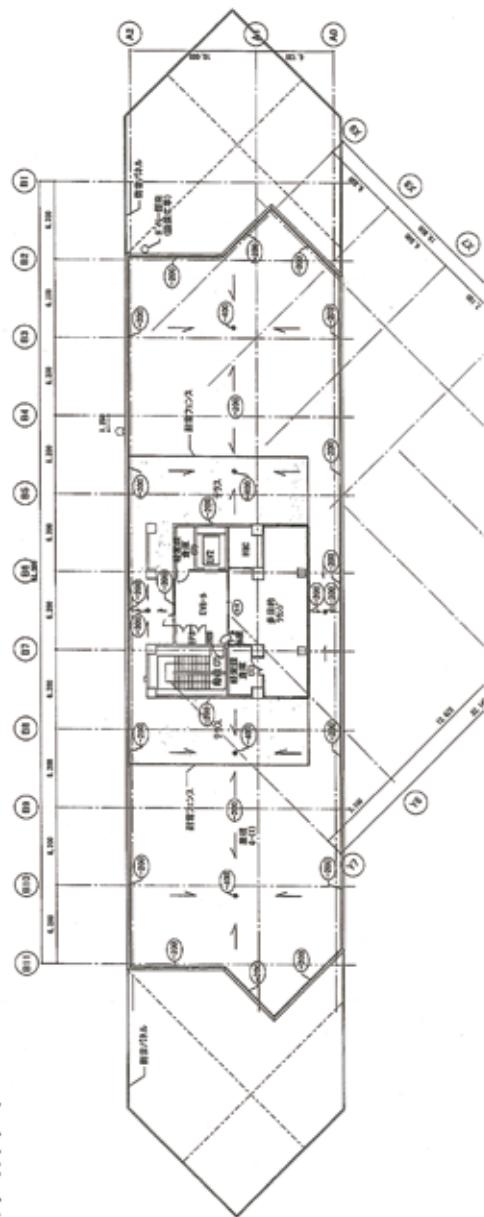


加茂市案



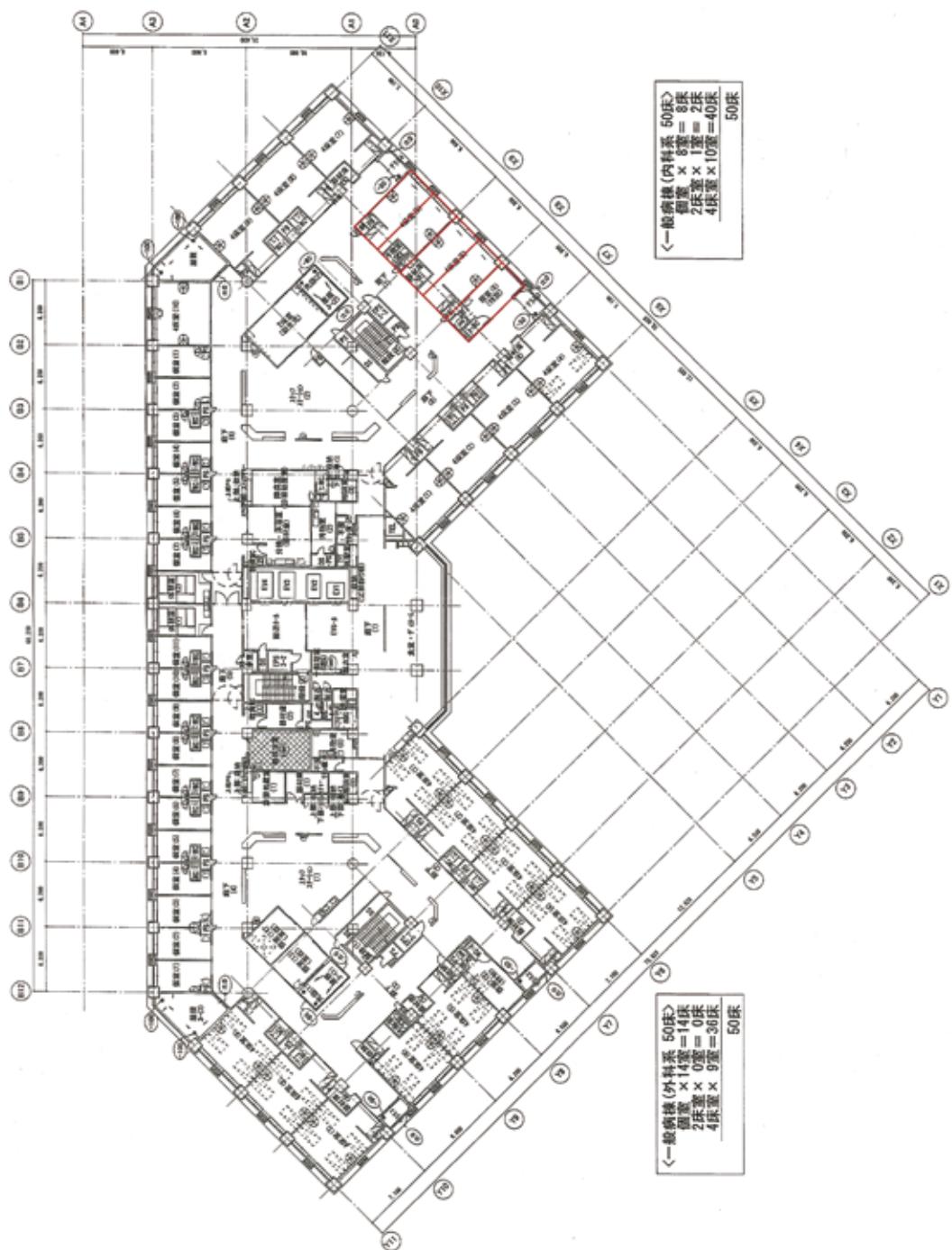
室名	面積(m ²)	備考
多目的ホール	115.16	アラーム併置含む
E Vホール・E V2	37.27	E P S含む
WC	21.75	
階段(2)	25.26	
合計	232.40	床計画より79.63㎡削除

累計画



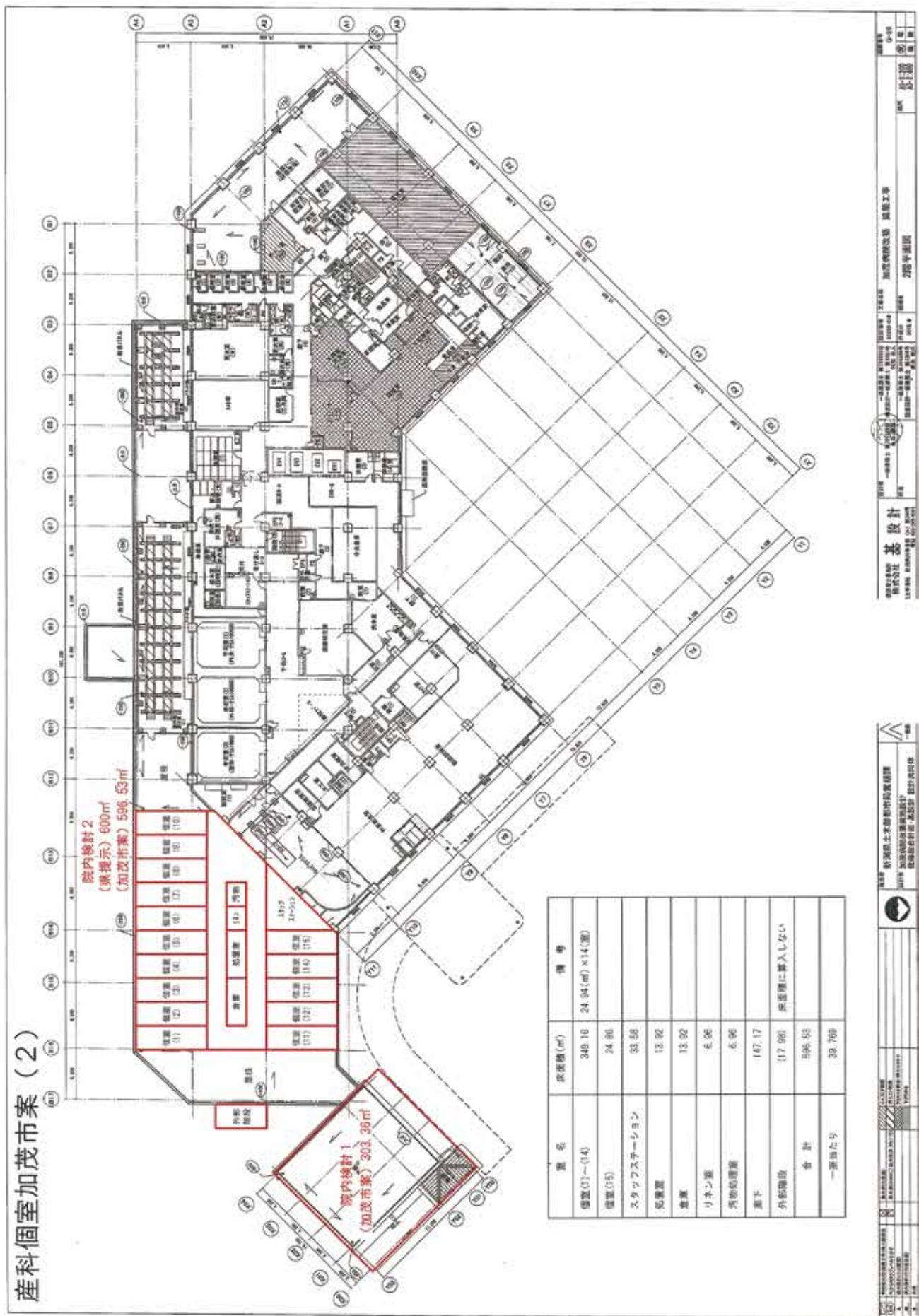
室名	面積(m ²)	備考
多目的ラウンジ	64.51	アラーム併置含む
E Vホール・E V2	35.61	E P S含む
経営課会議室(1)	11.58	
経営課会議室(2)	6.13	
階段(2)	25.26	
HWC	9.78	
合計	152.87	

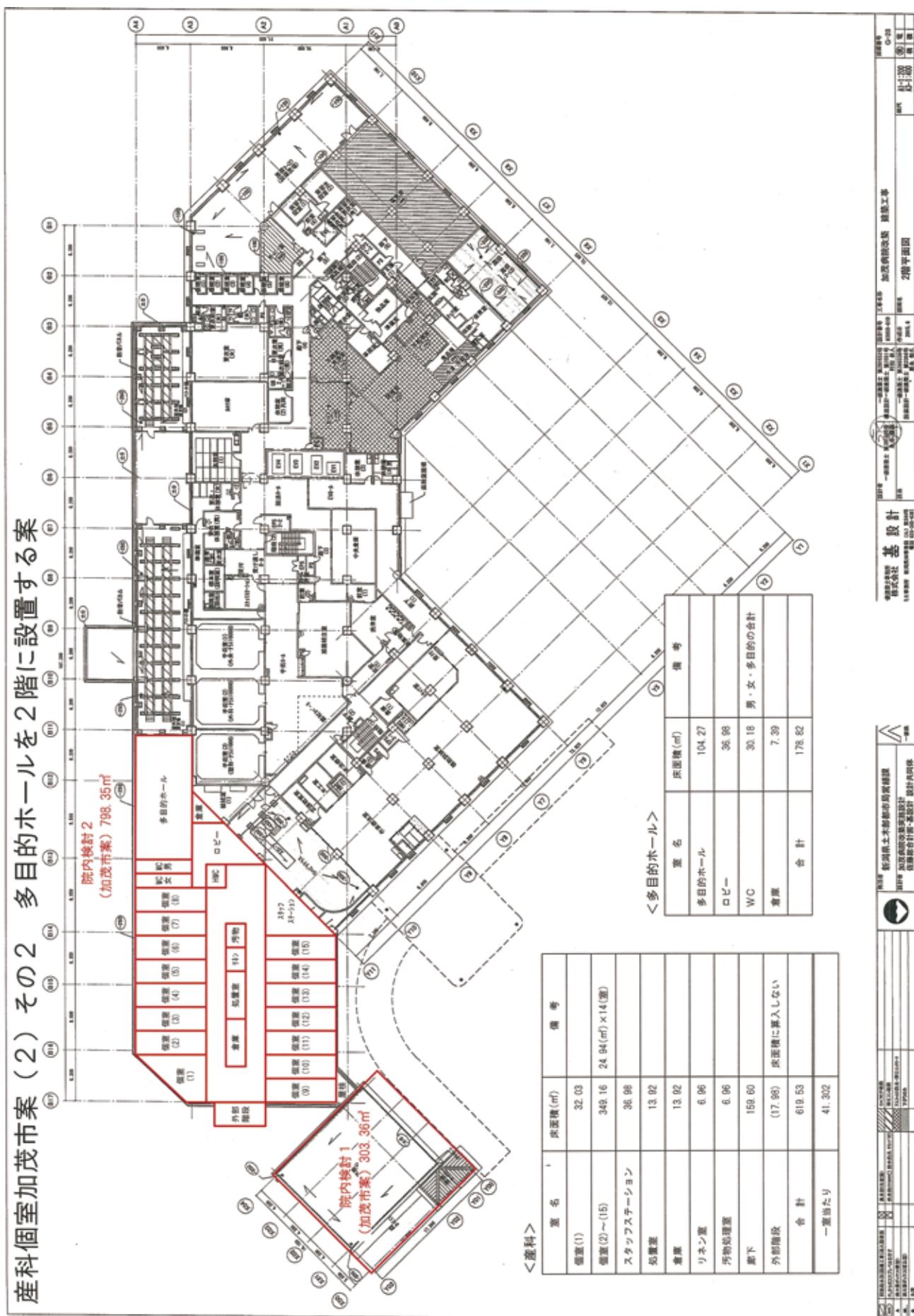
產科個室加茂市案(1)



新嘉坡-柔佛新嘉坡同家鐵路	
新嘉坡-柔佛新嘉坡同家鐵路	新嘉坡-柔佛新嘉坡同家鐵路
新嘉坡-柔佛新嘉坡同家鐵路	新嘉坡-柔佛新嘉坡同家鐵路
新嘉坡-柔佛新嘉坡同家鐵路	新嘉坡-柔佛新嘉坡同家鐵路

產科個案加茂市（2）





別紙4
平成27年11月24日
加茂市

産科の個室が20室必要な理由

1 加茂・田上地域の1年間の妊婦の数

250人

2 新津・小須戸・五泉市・阿賀町地域に産科が存在しないこと、三条市・燕市地域でも産科が少ないとこと、白根・中之口等の新潟市地域でも産科がないこと等を考えると、加茂病院にやって来る妊婦の数は、

400人～500人～800人

3 妊婦400人の場合

$$400^{\text{人}} \times 9^{\text{日}} = 3,600^{\text{人日}}$$

$3,600^{\text{人日}} \div 365^{\text{日}} = 9.86^{\text{人}} \cdots 1\text{日平均の妊婦数}$
多い日の妊婦数は、

$$9.86^{\text{人}} \times 2^{\text{倍}} = 19.72^{\text{人}} \doteq 20^{\text{人}}$$

従って、20室必要

4 妊婦500人の場合

$$500^{\text{人}} \times 9^{\text{日}} = 4,500^{\text{人日}}$$

$4,500^{\text{人日}} \div 365^{\text{日}} = 12.33^{\text{人}} \cdots 1\text{日平均の妊婦数}$
多い日の妊婦数は、

$$12.33^{\text{人}} \times 2^{\text{倍}} = 24.66^{\text{人}} \doteq 25^{\text{人}}$$

従って、20室は必要

5 妊婦800人の場合

$$800^{\text{人}} \times 9^{\text{日}} = 7,200^{\text{人日}}$$

$7,200^{\text{人日}} \div 365^{\text{日}} = 19.73^{\text{人}} \cdots 1\text{日平均の妊婦数}$
多い日の妊婦数は、

$$19.73^{\text{人}} \times 2^{\text{倍}} = 39.46^{\text{人}} \doteq 39^{\text{人}}$$

従って、20室でも全く足りない。

平成27年11月18日

加茂市

加茂市長が記者会見で述べた病児・病後児保育施設設置案についての病院局長のコメントに対する加茂市長のコメント

平成27年11月12日付で発表された病児・病後児保育施設についての県側の文書に対する回答は、県の上層部に後日差し上げることになっておりますので、このたびの病院局長のコメント（平成27年11月16日）に対しては、とりあえず、次の点だけを指摘しておきます。

- 1 加茂市長案で行くと開院時期が年単位で大きく遅れるとのことですが、そんなことはありません。急いで設計変更を行えば、1週間もあれば可能あります。
- 2 6階に建設予定の多目的ラウンジは、ぜいたく品です。この部屋が60m²位ありますので、これを100m²位に広げて、多目的ホールにするだけの話です。
- 3 設計費、工事費等で数億円規模の多額の費用が発生するとのことです
が、そのようなことは、ありえません。
- 4 上記2で述べたやり方をすれば、院内検討1のところに建設する予定であった多目的ホールの建設費がいらなくなりますので、1億円位の経費がいらなくなり、その分建設費は減ります。
- 5 病院局は、ひたすら開院時期が遅れるといって、住民を煽っておら

れますが、それなら、なぜ今まで、病児・病後児保育施設と個室のそろった産科という、住民の幸せにとって欠くべからざる要望を無視し続け、真剣な協議をせず、9か月も引き延ばして来たのですか。

6 このため当方は、加茂市民及び田上町民を中心とする県民の幸せのため、真にやむをえず、旧看護専門学校の建物の解体等に対する許可・承認等を行わずに來たのです。

7 そして当方が旧看護専門学校の建物の解体等に対する許可・承認等を行ったところ、やっと病児・病後児保育施設の建設を認めたのではありませんか。その間9か月もかかっています。

8 当方は、知事さんの「病児・病後児保育施設をつくらせてやってはどうか」との温かい御配意があり、場所は、院内検討1のところとの感触を得たがゆえに、旧看護専門学校の建物の解体等の許可・承認等を行ったものであります。

9 しかるに病院局は、病院敷地の前面の一角にこの施設をつくる案を出して来られました。しかし同時に院内検討1と院内検討2を提示して来られたことに対しては、知事さんの御配慮に感謝しております。

10 しかしながら病院局案は、次の理由により、不適当であります。

(1) 病院局案では、面積が 240 m^2 にすぎず、加茂市と田上町の人口41,000人の地域の病児・病後児を収容することはできません。加茂市・田上町案は 303 m^2 ですが、これでさえ手狭です。ちなみに人口70,000人の福井県鯖江市は、病児・病後児を送れる保育施設を8つも持っています。

- (2) 病院局案は、病院の建物から遠く離れており、小児科の医師が往診に来るのに時間がかかり、病児・病後児の保護者が小児科の診察室からこの施設まで子供さんをつれて來るのに時間がかかります。しかも雨風の日や冬期も、吹きさらしのアーケードを通って來て、さらにアーケードから屋根がなく、車がひんぱんに通る道路を横切らなければなりません。
- (3) 旧看護専門学校の建物の解体等が間もなく始まりますが、これから6年間、加茂病院敷地内の駐車場は、病院局案の場所を除いて、ほとんどすべての駐車場が使えなくなります。従ってこの場所は、加茂病院へ診察を受けに來る人達にとって、きわめて貴重な駐車場なのであります。これをなくすることは、絶対に避けなければなりません。
- (4) 新しい加茂病院が完成しますと、美しい建物の前にきわめて広い駐車場のスペースができます。しかるにその前面に病院局案の建物が建てられる場合は、せっかくの視界をさえぎり、せっかくの景観を著しく害することになります。

11 病院局におかれましては、憲法及び地方自治法に定める民主主義の精神を基本とし、加茂市民及び田上町民を中心とする広い地域の県民の幸せを第一に考えられ、知事さんの真意をよく理解されて、地元県民の称賛をあびるような県政が行われて行きますよう、知事さんを補佐して行かれますことを望むものであります。

第48回 市展

市展賞受賞作品

10月31日から11月4日まで、市民体育館で開催された市展（加茂市美術展）には、おおぜいの皆様から鑑賞していただきました。今年の市展で市展賞ほか各賞を受賞された作品を紹介します。

日本画



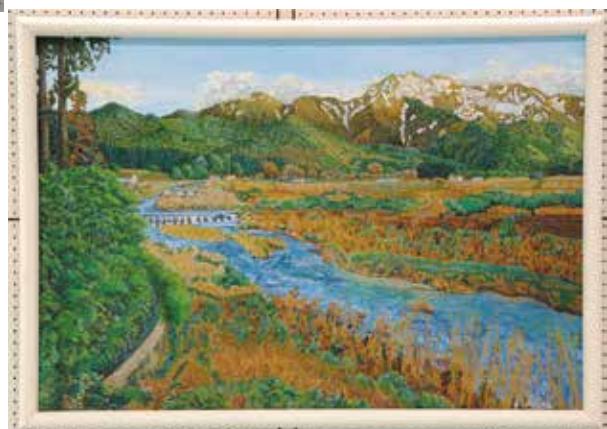
「紫陽花の小道」 山田京子 さん

工芸



「位相写像文彩」 種橋竹夫 さん

洋画



「瀧ひずく煙みかす峰」
田浦 明 さん

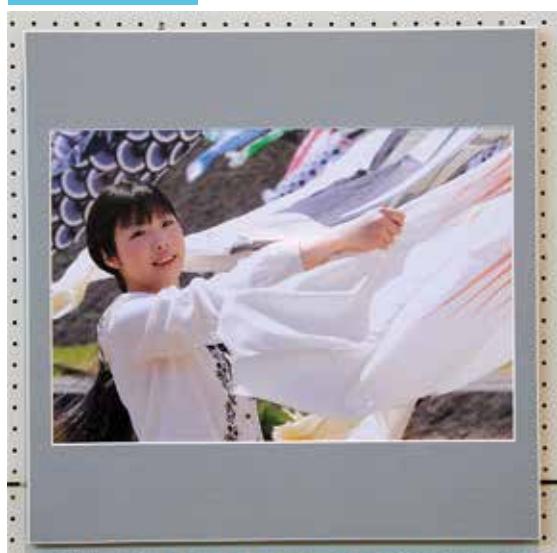
書道

「楓葉」 河内敦子 さん



写真

「風をつかまえて」 高橋一行 さん



※今回、彫刻部門の市展賞受賞作品はありませんでした。

第48回 市展

新潟日報美術振興賞受賞作品



日本画

「秋彩」相田梨美さん

工芸



「タベストリー (りゅう)」
本多千晴さん

書道



「五言一句」大桃伊志さん



写真

「花まつり」
新井勝義さん



洋画

「卓上静物」
山際正夫さん

※今回、彫刻部門の新潟日報美術振興賞受賞作品はありませんでした。

第48回 市展

奨励賞受賞作品

写真

「風のいたずら」
鈴木昌也さん



日本画



「涼」菅家照子さん

書道



「李白詩」
志田愛泉さん

工芸



「風と大地」小川千恵さん

洋画

「佐渡の海」
大野美優さん



工芸



「うふっ」石澤啓一さん



「じいじ、あのね」
長谷川尚子さん

写真



「祝福の門出」鈴木敏夫さん

「天糸瓜」中林春子さん



書道



「後拾遺和歌集より」大橋香汀さん



「張大受の語」小野結奈さん

第48回 市展
振興賞受賞作品

書道

「臨 樂志論」神保美香(三条高)さん



「臨 伊都内親王願文」
平田臥藏(加茂高)さん

洋画



「夜と光の木」
三星美彩希(加茂高)さん

「夜に溶ける」
目黒晴奈(加茂高)さん



第四十八回市展の各部門で市展賞を受賞された皆さんから感想や作品についてのコメントをいただきましたのでご紹介します。

【日本画】「紫陽花の小道」

山田京子さん

この度は市展賞をいただき、身に余る光栄に思います。ありがとうございました。また、あたたかく指導してくださる先生や皆様に感謝申し上げます。

今回の作品は家に咲いている大好きな紫陽花を描きました。人物を入れる事で動きのある絵になると思い、家族から傘をさして、何回もポーズをとつて協力してもらいました。四季折々に色を変えてゆく紫陽花の移ろいゆく色、姿、人物とのバランス、私が感動した気持ちを表現できたらと思いましめたが、まだまだ未熟な表現しか出来ず、試行錯誤しながらやつと完成させました。

そんな作品だけに受賞の喜びもひとしおです。今回の受賞を糧に今後も楽しく絵を描き続けていきたいと思います。

【洋画】「濁らす燻みかす峠」

田浦 明さん

春になり冷たい空気が緩んでき

たときの峠というのを、前に何かで読んだことがありました。

その場所を自転車で探して、写

真に写し、また明日行こうか、昨日見たのがまた見れるのか、見たものを忘れはしないかと思いながら描いていきました。

この絵と受賞を今日のステップにして、明日は次のテーマを見つけたいと思います。

【工芸】「位相写像文彩」

種橋竹夫さん

『漫画から発想を:』

受賞に際し感謝申し上げます。

この作品の原点は、テレビ漫画のネタから発想を得ました。ある惑星が爆発、発生したエネルギーは強力な電磁波となつて地球上に襲いかかつてくる。しかし、特殊な防護索やネットで、ビル等建物の破壊を防止するといった筋書きがモチーフになっています。

当時のデザインは、現物の倍以上の大作でした、それは影を深くして立体感を持たせる為、電磁波の伝わる様子を非連続的写像で幾重にも現したかったからです。しかし、ある都合で深みのある造形つた反省が残りました。前述の様にモチーフと实物を対比した時に

イメージの不一致が感じられると思います。

しかし、発想は漫画的でも最終的には、如何に深みのある立体感を表現できるかが最大の課題でした。

作品制作を意識して撮り始めた。そこからこのカットを選んだのは、画面から感じる「心地よい空気感」でした。初夏の柔らかな光の中でふわっと爽やかな風が加茂川に吹いた。そんな瞬間でした。また、これまでの挑戦から、題名も作品の重要な要素と感じており「見えないものが見える」ような題名を選びました。題名と合わせて爽やかな「風」を画面から感じて頂けたら幸いです。

今年は、ご縁があり市内の素晴らしい作家の皆様とグループ展を開催しました。そこでいただいた沢山の刺激が、今回の受賞につながったと思っております。この場をお借りして感謝申しあげます。この受賞を励みにさらに精進して参ります。

結びに、撮影に協力してくださったNさん、あなたがこの「風」を運んでくれました。ありがとうございました。

【写真】「風をつかまえて」

高橋一行さん

奨励賞の受賞から一年。四度目の挑戦での最高賞受賞に、驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

【書道】「楓葉」

河内敦子さん

このたびは、思いかけず市展賞をいただきありがとうございます。

書道を始めて二十五年ほどになります。主人の転勤で長岡に住み、

またまた知り合いの先生に再会しました事がきっかけでした。ほんの気楽に始めたお習字でしたが、なぜか辞められなく、続けてきました。日々の練習は休憩ばかりで困ったのですが、やつと習字から書道へ少し成長できたかな?という想いです。日常の字が下手な事は今でもコンプレックスです。それでも一人筆を持つていると楽しい時間です。

今まで続けられたのは、書を通じての大好きな友人と、家族のお陰です。感謝を忘れずに、続けていきたいと思います。ありがとうございました。

春になり冷たい空気が緩んでき

秋の叙勅

秋の叙勲において、加茂市から三名の方が褒章されました。褒章された皆さんから、お話をお聞きしました。

瑞宝双光章（消防功劳）



志田正男さん
(70歳 第一区)

瑞宝单光章（消防功劳）



川田直樹さん
(71歳 上町)

黃綬褒章



渡邊文彦さん
(40歳 寿町)

きました。そこが火災件数の減少として表れているのではとのことです。

今は、退職後始めたゴルフと野菜作りに励んでいますが「まだまだ初心者の域」とお聞きしました。

今は日課とする散歩と、家業の「川田時計店」社長として忙しい日々と話されていました。

章の重みを感じる」とともに、これまで展示会に出品させてくれた建具協同組合の皆さんやお客様、そして家族への「感謝でいっぱいです。」と感想をいただきました。

章の重みを感じる」とともに、これまで展示会に出品させてくれた建具協同組合の皆さんやお客様、そして家族への「感謝でいっぱいです。」と感想をいただきました。



美人の湯に展示している渡邊さんの組子建具「春待つ粟ヶ岳」

その間のよく覚えていっていることが
加茂川水害のこと。救助、避難誘
導、搜索、被害調査などを通して
自然災害の恐ろしさは忘れてはい
けないものと思つたそうです。火
災については、生活様式や新しい

した。受章を伝えられたとき「思つてもみないことで驚きました。消防団関係だけでなく、地域や大勢の方々と家族の理解と協力でいただけたものと思います。」と話されます。

渡邊さんは父親と同じ建具職人となつて二十二年。これまで製作した組子建具は数々の賞を受け、平成十九年には「現代の名工」にも選ばれています。受章の知らせには「想像もつかないことで、受

は「ちよつとはずかしい」そうです。これからは、産地としての加茂を支えるためにも、若手の育成に取り組んでいきたいと話していました。



愛好家の皆さんのが愛情を込めて育てた菊を展示する第十二回加茂菊花展が六日から冬鳥越スキーガーデン特設会場で開催されました。今年は、市内外の六団体から八部門百七十五点が集まり、大勢の皆さんから様々な種類の花を楽しんでいただきました。

表彰式で小池清彦加茂市長は「一年をかけ、大切に育てられた菊を見ると心が洗われる思いがします。」とあいさつしました。新潟県菊花連盟副会長の武田三郎さんと同中菊副部長の小林與三郎さんから審査をしていただき、「開花の調整にご苦労されたと思います。」と講評をいただきました。

今年の加茂菊花展の総合賞および各部門に入賞された皆さんは次のとおりです。（敬称略）

総合賞

市長賞 中菊「江戸黄八丈」
田辺政一（五泉市）

二等賞 懸崖「輝」

小林戦平（新潟市秋葉区）

三等賞 木付け「輝」

清水清松（上下条）

部門賞

■管物三幹

優秀賞「天女の名所」長谷川三作（新潟市秋葉区）・一位「泉郷富水」長谷川三作・二位「天女の名所」

橋輝継（北潟）・三位「天女の名所」

橋輝継（北潟）・三位「天女の名所」高橋輝継

■厚物三幹

優秀賞「新大平の銀峰」橋輝継・

一位「大平の銀峰」橋輝継・

二位「新大平の銀峰」橋輝継・

三位「新大平の銀峰」橋輝継・
「大平の新銀峰」関川勝（下鶴森）



加茂菊花展出展団体・審査員の皆さん

市長賞 田辺政一さんの
中菊「江戸黄八丈」



二等賞 小林戦平さんの
懸崖「輝」

■懸崖

優秀賞 「輝」 小林戦平（新潟市秋葉区）・一位 「乙女桜」 桜井美千代（新潟市南区）・二位 「笛の雪」 藤田一三（五泉市）・三位 「阪神の輝」 吉田茂（新潟市秋葉区）

■七幹立

優秀賞 「富士の新雪」 牛田勝（田上町）・一位 「兼六香菊」 安中朝次（上町）・二位 「天女名所」 大竹与市（新潟市南区）

■盆栽

優秀賞 「普通盆栽」 佐藤茂（新潟市秋葉区）・一位 「紅雀」 長谷川三作・二位 「紅雀」 長谷川三作

■木付け

優秀賞 「輝」 清水清松（上下条）・一位 「輝」 松田満（上下条）・二位 「白妙」 清水清松・三位 「阪神の輝」 湧井秀一（上下条）

■中菊

優秀賞 「江戸黄八丈」 田辺政一（五泉市）・一位 「乱れ糸」 田辺政一・二位 「弥彦の桜」 田辺政一・三位 「暁雲」 安中朝次

■だるま・福助・切花

優秀賞 「泉郷富水」 （福助） 高橋輝継・一位 「国華幸」 大竹与市・二位 「精光右近」 大竹与市・三位 「精光右近」 大竹与市、「国華金山」 大竹与市



三等賞 清水清松さんの木付け「輝」



(左) : 厚物三幹 高橋輝継さんの優秀賞
「新大平の銀峰」 (中) : 管物三幹 長谷川三作さんの優秀賞「天女の名所」 (右) :
七幹立 牛田勝さんの優秀賞「富士の新雪」



盆栽 佐藤茂さんの
優秀賞「普通盆栽」



福助 高橋輝継さんの
優秀賞「泉郷富水」

カメラ スケッチ



市民音楽祭（11月1日）

40回目を迎えた今回、ダンス・バレエの部には5団体が、楽器・合唱の部には17組が出演しました。最後の全員合唱では、これまで音楽活動を指導してこられ、7月に亡くなられた押見榮喜先生が偲ばれました。

水源地炭焼き体験

秋に開催されている「炭焼き体験」では、窯からの炭出しが体験できます。また、窯の熱で焼かれたサツマイモやクリのサービスに大勢の方から楽しんでいただけました。

総体結果

サッカー

期日 11月3日

会場 市営サッカー場

参加チーム数 8チーム

【小学生の部】

- ①FC ACTIC ②新潟ナポリ
三条ジュニア ③加茂FC ジュニア



駅伝競走

期日 11月3日

会場 陸上競技場周辺周回コース
【3区間 6.6km コース】

- ▼中学生女子の部 ①田上中学校 A
26分3秒 ②加茂中学校 A ③田上中
学校 B

【5区間 11km コース】

- ▼小学生男子の部 ①チームO 45分
11秒 ②石川マラソン 4年生 ③チ
ムY ▼小学生女子の部 ①七三Z 54
分14秒 ②ドッジボール女子 A ③ド
ッジボール女子 B ▼中学生男子の
部 ①若宮・須田・七谷合同 40分31
秒 ②田上中学校 ③葵中学校 陸上競
技部 A ▼高校一般男子の部 ①加茂
農林高校 36分41秒 大会新 ②Fun

バレー ボール

期日 11月7日

会場 勤労者体育センター

【中学生女子の部】

- ①葵中学校 ②七谷中学校 ③田上中
学校



バスケットボール

期日 11月22日

会場 加茂中学校体育館・
勤労者体育センター

【中学生男子の部】

- ①葵中学校 A (3年生) ②葵中学
校 B (1・2年生)

Runners ③なんちやつて 陸
上部 高校一般女子の部 ①青い珊瑚
35分37秒

千刈遺跡 — 古墳時代後期の集落 —

加茂の風土記



昭和48年の発掘調査の写真（報告書から転載）

千刈遺跡は昭和四十八年に行われた加茂川の支流・大皆川の河川拡幅工事によつて発見され、地表下約3mの地層から多量の土器が出土した。現在、周辺は住宅などが建ち、かつて発掘調査が行われ、多量の土器が出土したことを想起することは難しい景観である。

発掘調査は冬の厳しい環境の下、排水もままならぬ悪条件で緊急に行われたことから、住居などの遺構を明確にすることはできなかつた。遺物（主に土器）を集めただけで手一杯であつたという。

土器は大きな破片のものが多く、中にはほとんど欠けていない完形のものも採取された。土器は土師器で、食べものを煮炊きした甕や食べものを盛る器の杯が大半を占める。杯の内面はいぶして黒く仕上げられている。この内面黒色土器は、古墳時代後期の東日本の広

い範囲で見られる。また、わずかであるが須恵器も出土した。須恵器は貴重品で、生産地は近畿地方と見られる。これらの土器は形や

社会福祉費寄付金

▼小島フミエさん（大郷町二）から五万円

▼故・伊藤篠男さんから三十万円

▼公益社団法人新潟県トラック協会三南支部から十万円

▼交通安全寄付金

▼ふるさと寄付金

▼遊佐伴和さん（福島県福島市）から一万円

▼笠原順一さん（東京都江東区）から三万円

▼加茂市へ

▼復興花友南相馬（代表・木幡史子さん）福島県南相馬市）から

南相馬産パンジー七百二十ポット

北児童館（加茂小学校内）へ

▼株式会社本所屋商店（幸町二）からエレクトーン一台

墳の様相については頸城地方を除いてそれほど明確ではない。加茂市内では千刈遺跡のほか、釜湧遺跡など数カ所で古墳後期の集落遺跡が確認され、南蒲原地域の古墳時代後期の様相を考える上で欠かせない資料を提供している。

なお、発掘調査の記録は概報ながら加茂市文化財調査報告（二）として調査の翌年に刊行された。加茂市の考古学史で記録保存の先駆けとなつた重要な遺跡でもある。

（伊藤秀和）

人口のうごき

11月1日現在	
世帯	10,297（-10）
人口	28,787（-39）
男	13,951（-14）
女	14,836（-25）
（）内は前月比 (10月異動分)	
出生	18（男8女10）
死亡	32（男13女19）
転出	45
転入	20

ふりがな

